

こんなときに利用しよう！ファミリー・サポート・センター

ファミリーサポートとは、育児の援助を受けたい方と、育児の援助を行いたい方が、市町村の設置したファミリー・サポート・センターに登録して会員となり、センターが仲介し、会員同士が支えあう制度です（一部の市町村では、公益法人等に運営を委託しています）。育児の援助を行う会員は、安全や対策等の援助に必要な講習を受けて会員となった後、子どもの保育施設へのお迎えや、預かりなどの援助を行っています。

育児の援助を受けたい方は、事前にセンターへの登録が必要で、登録や受けられる援助活動、料金については、お住まいの地域のサポートセンターまでお問い合わせください。なお、本学の教職員は勤務先が西原町となるため、「那原区・西原・中城ファミリー・サポート・センター」の支援も受けすることができます。（2013年2月現在）

| 施設名 | 住 所 | 電 話 |
|---------------------------|---|-------------------------------|
| 沖縄市ファミリー・サポート・センター | 沖縄市中央3-15-5 (パークアベニュー通り) | 098-921-1234 |
| 那覇市ファミリー・サポート・センター | 那覇市金城3-5-4 (那覇市社会福祉協議会内) | 098-857-8991 |
| 名護市ファミリー・サポート・センター | 名護市港2-1-2 (名護市児童センター内) | 0980-53-3926 |
| うるま市ファミリー・サポート・センター | うるま市みどり町6-9-1 (みどり町児童センター内) | 098-972-6229 |
| 浦添市ファミリー・サポート・センター | 浦添市内間2-18-2 (浦添市地域福祉センター内) | 098-870-0073 |
| 豊見城市ファミリー・サポート・センター | 豊見城市市館長854-1 (豊見城市役所内) | 098-850-0143 (児童課直線・ファミサポ) |
| 宜野湾市ファミリー・サポート・センター | 宜野湾市野島1-1-1 (宜野湾市役所内) | 098-893-4411 (内線458-461) |
| 北谷・嘉手納・北中城ファミリー・サポート・センター | 北谷町北谷1-12-11 | 098-989-9763 |
| 糸満市ファミリー・サポート・センター | 糸満市西崎1-35-2 (西崎岡児童センター内) | 098-992-4228 |
| 南風原町ファミリー・サポート・センター | 南風原町字宮平697-10 (南風原町総合保健福祉防災センターちむくる館内) | 098-889-3327 |
| 八重瀬町ファミリー・サポート・センター | 八重瀬町字東原1068 (八重瀬町社会福祉協議会館内) | 098-998-4000 |
| 南城市ファミリー・サポート・センター | 南城市大里字仲間918 (南城市総合保健福祉センター内) | 098-882-8861 |
| 那原区・西原・中城ファミリー・サポート・センター | 那原町字東浜78-5ディアフラッツ東浜101号 | 098-988-1914 |
| やんばる町村ファミリー・サポート・センター | 名護市中大3-9-1 | 0980-43-0232 |

基本料金は600円/時ですが、時間帯や内容によって異なりますので、詳しくは各センターへお問い合わせ下さい。

編集後記
 たくさんの方にご関心いただき、キックオフシンポジウムを無事終了することができました。シンポジウムの中で、女性研究者自身の口頭発表と「質問」をそれぞれ受ける「質問」と何回もキーワードとして「質問」という言葉が出てきたことが印象的です。私たちが日々、みなさまの目のどろころになれるよう精進します（そ）。おかげでvol2も発行できました！当センターwebサイトからバックナンバーも見るすることができます（ま）。

国立大学法人 琉球大学 うない研究者支援センター

University of the Ryukyus
 Unai Center for Researcher Support and Development

TEL 903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 本学本部1階
 〒 908-895-8675 E-mail: unai@to.jim.u-ryukyuu.ac.jp
 FAX: 098-895-8732 URL: http://www.gender.jim.u-ryukyuu.ac.jp/unai/



うない通信

国立大学法人 琉球大学 うない研究者支援センター ニュースレター Vol.2 2013年3月発行

キックオフシンポジウムを開催しました！

平成25年2月14日（木）、琉球大学文学部新棟215講義室にて、うない研究者支援センターキックオフシンポジウム「うない から始まる琉球大学の未来」（琉球大学主催）を開催しました。本シンポジウムは、平成24年度文部科学省科学技術人材育成補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一環として企画したもので、当日は教職員や学生、学外者を含め、約180人が参加しました。

主催者を代表して若政博男学長から開会挨拶、続いて文部科学省科学技術・学術政策局基礎政策課 課長補佐（左から）パネリスト 琉球大学 在職奨励枝子教授、北海道大学 有賀早苗教授、自衛隊 大井洋子中隊長、宇都宮大学 教授・学術情報部長、沖縄県立大学 教授 石田千由子、フアンリナーター 琉球大学 藤原真由江氏

織田麻氏、「女性研究者の現状と琉球大学への期待」と題して、国際比較から日本の女性研究者が置かれている現状と課題を述べられ、第4期科学技術計画（内閣府）や文部科学省の取り組みなどを紹介し、大学執行部をはじめとする全学的な意識改革への取り組みや他大学のモデル事業を積極的に取り入れていくことを琉球大学への期待として提案されました。

続いて、北海道大学副理事・女性研究者支援室長の有賀早苗氏（大学院農学研究院・生命科学院 教授）による特別講演「女性研究者の活躍促進、なぜ必要？何が必要？」が行われました。女性研究者支援事業の実態において、女性研究者の活

男女共同参画キャラバン隊スタート

平成25年1月18日、西川理事（総務担当）、花城製枝子男女共同参画室長、小西照子うない研究者センター副センター長及び仲地善則人事課長が、川本康博農学部長を訪問し、平成26年度末までに女性研究者の在職比率を16%以上とする目標値を達成するために、農学部における女性研究者の積極的採用や女性研究者支援事業の推進、男女共同参画推進の取組等について、意見交換を行いました。また、来年度の教員採用に向けて、関連する学会へ本学の女性研究者支援事業に関する広告を掲載することとし、



文部科学省科学技術・学術政策局基礎政策課 課長補佐 藤原真由江氏（左）と、北海道大学副理事・女性研究者支援室長 有賀早苗氏（右）の特別講演

北海道大学における女性研究者をめぐるポジティブアクション北大方式や若手研究者キャプルの同僚支援等の取り組みを紹介し、優秀な人材を集めるために大学として社会環境を整備することの重要性を強調されました。

「人的資源が切り拓く大学の将来～今なぜ男女共同参画か」と題したパネルディスカッションでは、高納育江センター長がファシリテーターを務め、パネリストとして有賀早苗氏、大井久美子氏（長崎大学 男女共同参画推進センター長）、前田和子氏（沖縄県立大学学長）をお招きし、さらに本学からは花城製枝子男女共同参画室長が参加し、各大学の取り組みや女性研究者としての歩みなどの紹介を交えながら、地方大学における人的資源の確保をめぐる課題を共有し、大学間の人材ネットワーク形成の必要性について意見交換を行いました。



女性研究者の採用促進を依頼しました。今後も職次、各部局長を訪問し、意見交換を行う予定です。



育児と仕事の両立を応援します！

ご存じですか？ 本学の育児に関する制度について

Q 育児休業とは、どのような制度ですか？

A 無給ですが、3歳に達しない子どもを養育する常勤職員が、育児をするために休業することができる制度です。
(非常勤教職員は、子どもが1歳に達する日まで取得できます。)

*詳しい内容は、所属の総務担当者または総務部人事課任用係にお問い合わせください。

Q 育児部分休業制度と育児短時間勤務制度を同時に利用できますか？

A いいえ、同時に利用することはできません。どちらも3歳に満たない子を養育するための制度ですが、育児部分休業は、1日の勤務時間の一部（1日を通じて2時間を超えない範囲内）について勤務しない制度です。育児短時間勤務は、指定された勤務形態により、職員が希望する日及び時間帯において勤務することができる制度です。

Q 育児休業中の給与は支給されますか？

A 育児休業中は、給与は支給されませんが、雇用保険や共済組合のよからから給付金又は手当金が支給されます。部分休業の場合は、勤務しない時間が減額され支給されます。

*詳しい内容は、総務部人事課共済係にお問い合わせください。



育 休 を 取 る う !

琉球大学財務部財務企画課
財務分析係長 村社 敬紀

育児を取得されたいかがでしたか？

私は子供が生まれた時に5か月の育児を取得しました。取得したきっかけは、妻の勤務先の保育園が新築・移転を控え、妻が早急に仕事に復帰する必要があるためです。私の職場の反応として、事前に上司に相談していたこと及び繁忙期からはずれた期間の取得だったので、快く受け入れて頂きました。育児休業中は、各々の家事の間に格をこらして、おむつ替えなどの繰り返しなのであまりゆっくりする時間はあまりありませんでした。取得できなかったと思うことは、赤ちゃんの成長を日々実感できることです。昨日まで出来なかったことが出来たりするのを見ると感動します。

男性教職員のメッセージ

本当にいい経験になると思いますので、機会があれば是非取得してみてください。産後8週まではママは産後休暇中ですが、パパも育児休業が取得できます。つまり2人揃って育児ができますので、「男1人で育児は……」と心配な方もオスメスです。



琉球大学教育学部 島袋 純 (教授)

1) 研究紹介

私は、教育学部の政治学担当教員として、政治学、政治学やシニシニップ教育を教えています。しかし元々は大学院時代より行政及び地方自治を専門とし、英国を中心に上る欧州の自治州と日本の自治州理論の研究で学位を取り、特に最近では英国スコットランドの自治と沖縄の自治との比較研究に携わってきました。現在、「産後期の沖縄の統治構造と自治の発育」をテーマとして、長年の研究成果を論文としてまとめたいという段階です。単に既存の論文を並べ立てる論文集ではなく、40年の統治の構造的な変化とその課題の本質を一貫して解き明かす単著として発行する予定です。

2) 家庭との両立における課題

配偶者は、沖縄キリスト教学院大教授（英語学・言語学専攻）であり、2010年10月に第二子に生まれまわりました。現在、朝の保育園への準備及び車による送り、夕方の迎えを彼が役割に担っており、また自宅研修時間を増やさざるを得ない状況になっていきます。私のほか大学の勤務時間8時～6時、さらに土曜日より午後に研究時間をとることによって、どうにか自主的な研究書（単著）の執筆時間を確保しています。

しかし、そのことにより、妻の研究時間の確保が難しい状況となっており、今更には、今回は私が研究支援をいただくことになって、迷いが生じることがあります。また土曜日の研究時間を縮小することができ、研究の質を向上させると同時に、彼女の研究時間をわけてあげることができると考えています。

しかし、彼女としては、博士号を取得した論文（エジソン大学大学院言語学研究所）の加筆修正等によって、準備の出版を年度内に予定しており、まだまだ研究時間が絶対足りないことが悩みの種です。

3) 少ない研究支援センターに期待すること

今回、大学院修士の学生（女性）を研究支援に採用することによって、研究時間の校正、修正、作成支援を行うことにより研究者としての基礎を育成することができると思っています。とりくに女性の大学院生学生の結婚、子育ての資金や環境は、学業を続けていく上で極めて困難なものがあります。私の配偶者の場合、英国の大学院に入学し、学業を継続し学位を取得するまで、日本・沖縄の公的支援制度はまったく受け取っていません。学費、旅費、時間の捻出など、家計の大半を私の収入に支えられてきました。自画自賣です（笑）。しかし、夫婦が研究者である場合は、男性研究者の研究についてもやはり家事や育児との両立は大きな困難をもち、また経済的・精神的負担も極めて大きくなるから、よりよい研究支援体制の充実を期待しています。



経歴：1961年生まれ。早稲田大学政治学専攻。政治学修士（93年）。93年より琉球大学教育学部助教授。英国シニシニップ大学客員研究員（98～00年）を経て07年より助教授。05年「沖縄研究奨励賞」。現在日本政治学・行政学・地方自治学等の専攻。

琉球大学法文学部 石川 隆士 (教授)

初めまして、琉球大学法文学部で英文学の研究をさせていただいている石川隆士と申します。私の現在の研究テーマは「産後の詩学：蝶恋と鋼琴」で、古今東西の文学作品の中に人間と世界との関わりを在り方を見出すことに取り組んでいます。風は目に見えません。その見えにくい風は、人間は生命の美意識を発見できると、それを形に表してきます。その代表的な2つの象徴形が鋼琴と蝶恋です。蝶恋の美意識に風を感じるには容易でしよう。一方で鋼琴は、産の中に宿された宇宙の原理といふ妙なハーモニーのシンボルです。この2つの象徴を軸に研究を続けております。

この研究と大学の運営を合わせた「仕事」と「子育て」の両立は可能であると考えますし、実現成立してまいります。ただご要望があればいいだけです。24時間徹夜してまいります。人の一生も短いものです。優先順位の高いものから時間を配分して行けばいいのです。私の場合、現在3歳と5歳になる子供がもっとも高いものとなります。研究も教育も「未来」のためにやるものであって、その未来が育つのは嬉しいばかりの子供です。やがては親の手を離れ自立していく時を思っています。それまではできるだけ早く合時時間をとりたいと考えております。

その中で、必然的に研究に専念することができなくなり、いろいろな真務の中で苦渋の選択を迫られるのですが、今回の支援により情報収集や整理など研究の地下地となる作業が大幅に軽減されます。しかも本センターの支援が受けられることのできるのも配偶者が研究者であるから、家庭企業としてのライフ・ワークプランに向けての制度整備の意思をさらさらさせていただいております。詳細は割けますが、私の配偶者の研究は海外での仕事が多く、日にこま出している時間が、子供を置いて出張に出かける時などは後輩のひかれる、そして自身の強い思いをしてもたげられません。しかし、私の立場が軽減されることにより、そうした余分なストレスが解放され一層々々とした活躍ができることと考えております。

最後になりますが、おそらく、私の配偶者を含め多くの研究者が抱える悩みであると思っております。この際申し上げますと、希望としては研究補助以外の業務の補助も実現していただけたらありがたいです。なぜなら、研究に専任しているのは研究以外の業務であり、その負担が軽くなる方が研究者にとってありがたいからです。大学運営、事務処理等の業務は組織としての責任が伴うため、どうしても業務時間内の時間をできるだけ確保を得たい。そのため研究はそれ以外の時間に、ともしれば設置をたくわて専任を合わせるというの実態です。そこに充実した家庭生活をいうことを考えれば犠牲になるのは何かが、火を燃やすより生活がです。予算項目の関係上難しいことは重々承知しておりますが、現状の改善を目指すなら予算の柔軟な運用もご検討いただければと思います。



経歴：1992年 神戸外国語大学外国語学専攻卒業
1994年 名古屋大学大学院文学研究科修士課程修了
1998年 名古屋大学大学院文学研究科修士課程履修中
1999年 琉球大学講師
2001年 助教授
2009年 副教授

研究補助職員制度とは、出産・育児または介護等に携わる女性研究者や配偶者が研究者である男性研究者に対し、研究活動を支援するために研究補助職員を配置する制度です。詳しくは、少ない研究者支援センターまでお問い合わせ下さい。

次のページで研究補助職員制度を利用されている男性研究者の声を紹介します。